

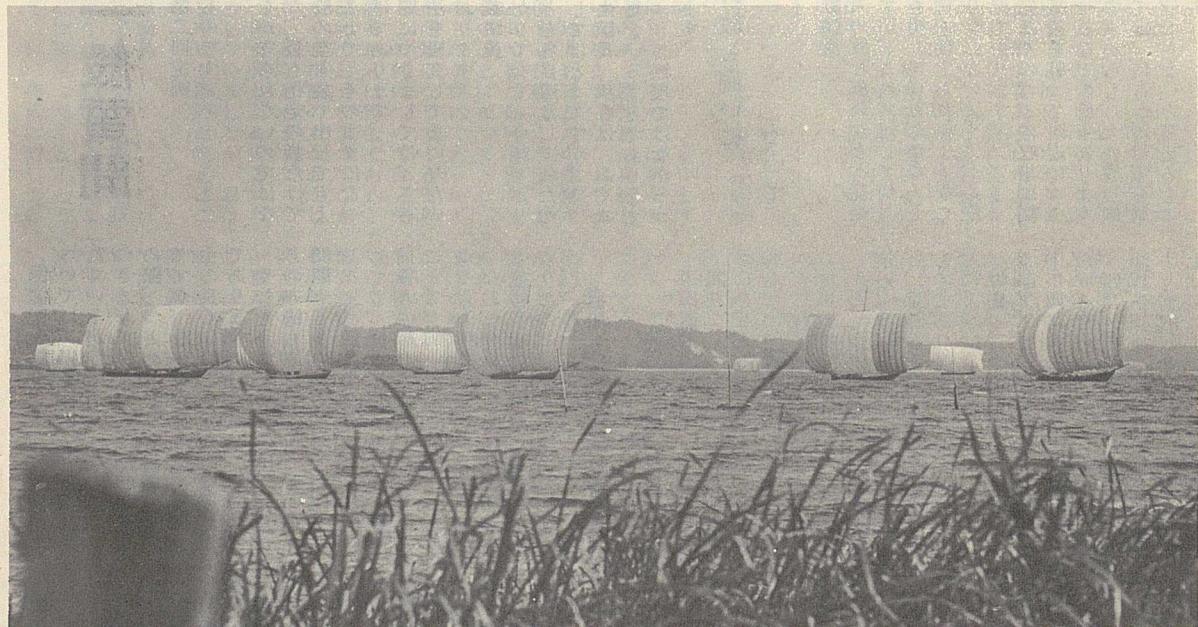
き た う ら

昭和49年8月20日発行 第166号 ◆発行と編集 茨城県行方郡北浦村役場 ☎ 02915-42.49.79

村の人口と世帯

昭和49年7月末日住民基本台帳調

	前月比
世帯数	増 3
世帯数 2,366	増 19
人口 11,112	増 12
男 5,466	増 7
女 5,646	



今月の紙面

ページ

2~4

議会一般質問
臨時会

4~5 全村濃密整備計画

6~8 区の基本構想できる
3・4目症該当者に戦傷
病者手帳を

なぜか白帆は
暑さを
雜踏を

遠い昔の思い出が
今、よみがえつてくる

忘れさせてくれる

詩情のふるさと
「北浦」は
まだ残つていた

まつ青な湖面に
点々と浮かぶ白帆

風をいっぱいにはらんで
白帆がすべる

ワカサギ漁とともに
帆引舟がやつてきた
古くから受け継がれてきた
この漁法

団地名	長栄落花生生産団地	小貫ごぼう生産団地	北浦西部みつば生産団地	小幡麦生産団地	
作目	落花生	ごぼう	みつば	麦類	
基 本 構 想	区画整備、農道及びかん水施設等はすでに整備されているので、生産者組織を育成しながら、機械化による深耕、堆肥投与等の普及による地力増進を進める。 また耕うん、堀取等の労力を節減し、団地内作目の品種を統一、輪作体系の合理化により集団栽培体制を確立して、近代的農業経営の誘導をはかる	農協の堀取機により一応の省力化は進んでいるが、基幹作業である。堀取さらに輪作体系及び作付規模の拡大等をはかるため生産管理施設を導入し、機械化による団地内畑作の一貫作業を推進する。また、選別技術指導等を積極的に行ない、出荷経費等の節減をはかり生産性を高める。	近年農家労力の減少により栽培管理が粗放化し、生産量が減少している。単位当たりの収益を高めるために貯蔵施設による株冷栽培を広く普及し、従来の3倍近い収益をあげている。反面、その有利性から施設規模が消化できない状況にあります健全な根株栽培が基本であるため、特に干ばつ等の影響を受け易いため貯蔵施設とあわせてかん水施設の整備が急務である	同地域は、畑作地帯であり比較的の經營面積も多くまた麦作の激減する中にあって從来より麦の栽培が盛んである。 さらに、麦作の定着化をはかるため、生産管理機械施設及び乾燥調整施設等を整備し、同時に生産組織を育成、受託農業による一貫栽培体系とさらに請負耕作に発展誘導する。	
生 产	現況 目標 現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標 現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標	
	31 ha 40 ha 10 ha 20 ha 100 ha 120 ha 25 ha 30 ha				93 t 144 t 160 t 400 t 400 t 600 t 70 t 96 t

団地名	吉川施設野菜生産団地	南高岡豚生産団地	武田養蚕生産団地	行戸麦生産団地	
作目	施設野菜(トマト、キュウリ)	豚	養蚕	麦	
基 本 構 想	同地域の1戸当たりの経営面積は極めて少く、また90%以上が水田のため単位当たり収益を高めるところから、古くより施設野菜栽培に取り組み技術的にもすぐれている。しかし近年土壤障害等により減収傾向がめだち、また農家経営も、個別方式のため投資資本が過大化し生産性を低下させている。単位当たり収益を高めるため、施設及び管理の共同化をはかり、同時に種苗等を畑作農家に委託を進め、効率的な施設野菜栽培を指導推進する。	地域内の農家は一応のまとまりを見せており、規模も年々拡大している。また、ふん尿も一部有効利用により野菜栽培が行なわれている。 反面、飼料の高騰、公害防止施設の整備等きびしい情勢に対処するため、野菜農家組織と連携をはかりながらふん尿の共同処理施設を設置し養豚経営の近代化をはかる。	地域内には、共同稚蚕飼育施設、および生産機械施設が導入されており養蚕農家桑園面積等も増加を示している。 また、より良質な桑園は、桑の肥培管理が、前提であるため、特に畜産農家との連携をはかり、さらに、団地的な桑園造成をすすめ、効率の高い養蚕経営を指導推進する。	畠地帯であり、一部かん水施設等も整備され、農家労力、野菜の連作障害防止により、輪作体系などの面からも、麦作の振興が必要である。作業については、請負耕作による方向づけを指導推進する。	
生 产	現況 目標 現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標 現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標 現況 目標 現況 目標	現況 目標	
	10,000m ² 15,000m ² 4,000頭 6,000頭 78 ha 100 ha 20 ha 22 ha				100 t 180 t 240 t 390 t 65 t 100 t 50 t 60 t

ます。雨が漏るどころでなく降る状況では、何が重点事業であるといたいのです。全部をふきかえるのも大変です。この問題については現在財源をどうか、うがいます。村長たいへん深刻な問題であります。ねん出中であります。雨もりは当然、まずもつて補修しなければなりません。会として財源がないところは実施できない問題であります。これはすべて私の責任であります。この問題においては現在財源をりますがこれについては教育委員会としては財源がないところは実施できませんから、これをおざりにしておいた点について改めて陳謝いたしますのであります。ご指摘の通り、この雨もまたおざりにしておいた点については、改めて陳謝させることをおもにうにしたいと思います。

【第六回臨時会】

○受理番号3 件名 三育幼稚園存置に関する請願
審議結果 不採択
○受理番号2 件名 昭和49年産米政府買入価格の引上げ等に関する請願
審議結果 採択

第二回定例会の内容について、次のこと前月号に補足します。

昭和49年度北浦村一般会計補正予算について、一般会計の補正(第二号)を行なったもので、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ千百十萬七千円を追加し、歳入歳出それ八億三千七百六十四万五千元となりました。歳出の内容については次のとおりです。

●総務費 山田駅在所用自転車購入費 赤色回転燈電気料
●衛生費 県清掃協議会負担金 指導車任意保険料 中学校屋内体育館屋根葺替工事
●教育費 食糧費 請負費 一万四千円 九千円 八千円
五万五千円 千百万円

Smokin' Clean たばこの投げ捨てはやめましょう。

村に納められるたばこ消費税は、チエリーやマリーナ1個で約15円68銭です。48年度は15,182,640円納入されました。

〈たばこは北浦村で買いましょう〉

先の広報「きたうら」第一六三号で、北浦村の農業近代を図るために実態調査を行なったことを紹介しましたが、今度これをもとに、八区の生産団地形成の計画がつくられました。「北浦村全農密整備計画」と題して、八区の生産団地形成の計画がつくられました。北浦村は農業が産業の中心であるため、これを発展させてゆくためには、農業生産団地を育成整備してゆくことが中心課題であり、これに伴う農業基盤整備や施設整備、生産流通体制を整えることが必要であるといわれています。これについては、機械化利用の面から十十五ヘクタールを目指すため、これを発展させてゆくためには、農業生産団地を育成し、生産の単位に生産団地を育成し、生産の基盤をすることです。その中で農家は、内部の話し合いにより、段階的に作目の集團化をし、作付協定、栽培協定を結び、より進んだ段階で、作業協定まで結んだ生産組織を形成します。さらに進んだ段階では、個別の耕地の枠をとり除き、作付形態も、その生産団地としての計画を作り、作業も生産組織としての協業作業に移行させようとして進められます。水田については、ほ場整備。畠地については、台地のかん水施設の整備やこの中で現在進められているのは、北浦西部みつば生産団地です。



八区の生産団地構想できる

全村濃密整備計画
コンサルタント報告をもとに
実施は農家の意向で

とおりでした。
昭和49年度北浦村一般会計補正予算について、一般会計の補正(第二号)を行なったもので、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ千百十萬七千円を追加し、歳入歳出それ八億三千七百六十四万五千元となりました。歳出の内容については次のとおりです。

●総務費 山田駅在所用自転車購入費 赤色回転燈電気料
●衛生費 県清掃協議会負担金 指導車任意保険料 中学校屋内体育館屋根葺替工事
●教育費 食糧費 請負費 一万四千円 九千円 八千円
五万五千円 千百万円

号で、北浦村の農業近代を図るために実態調査を行なったことを紹介しましたが、今度これをもとに、八区の生産団地形成の計画がつくられました。北浦村は農業が産業の中心であるため、これを発展させてゆくためには、農業生産団地を育成整備してゆくことが中心課題であり、これに伴う農業基盤整備や施設整備、生産流通体制を整えることが必要であるといわれています。これについては、機械化利用の面から十十五ヘクタールを目指すため、これを発展させてゆくためには、農業生産団地を育成し、生産の単位に生産団地を育成し、生産の基盤をすることです。その中で農家は、内部の話し合いにより、段階的に作目の集團化をし、作付協定、栽培協定を結び、より進んだ段階で、作業協定まで結んだ生産組織を形成します。さらに進んだ段階では、個別の耕地の枠をとり除き、作付形態も、その生産団地としての計画を作り、作業も生産組織としての協業作業に移行させようとして進められます。水田については、ほ場整備。畠地については、台地のかん水施設の整備やこの中で現在進められているのは、北浦西部みつば生産団地です。

これにもとづいて、八区の生産団地をつくる計画ができましたので、その基本構想をあげます。これらの中の計画の実施については、青写真ができたという段階では、個別の耕地の枠をとり除き、作付形態も、その生産団地としての計画を作り、作業も生産組織としての協業作業に移行させようとして進められます。水田については、ほ場整備。畠地については、台地のかん水施設の整備やこの中で現在進められているのは、北浦西部みつば生産団地です。

